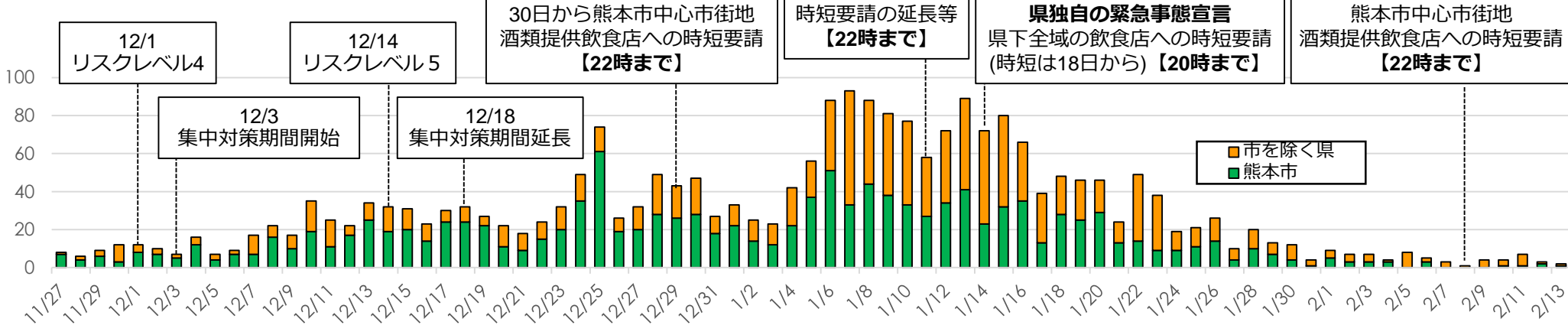


参考資料：熊本県新型コロナウイルス感染症対策本部会議（第23回）資料より

県独自の緊急事態宣言の解除について

12月以降の陽性者数と対策の実施状況



【国分科会尾身会長が示す国の緊急事態宣言解除の基準と本県の状況】

- | | | |
|---------------------|---|-----------------------|
| ① ステージ3に下がっている | ➔ | 全ての指標*がステージ3の水準を下回った。 |
| ② 感染状況と医療体制が改善傾向にある | ➔ | 感染者数も病床使用率も減少傾向が継続。 |
| ③ ステージ2まで下がる見通しがある | ➔ | 全ての指標*がステージ3の水準を下回った。 |

※...病床の逼迫具合は「確保病床使用率」で判定

- ▶ 県民及び事業者の皆様の御協力により、緊急事態宣言後、感染は持続的に減少
- ▶ 2月8日の宣言延長後、再増加も起こらず、病床使用率も改善（2/7:32.0% → 2/14:17.1%）

緊急事態宣言は2月17日(水)をもって終了する(18日(木)から解除)。
 (本県の国分科会ステージは18日に引き下げ、「ステージ2」とする)

今後は「第3波」の経験を生かし...

- ・ 感染の再増加を防止するための対策を実施
- ・ 再増加の傾向を確認した場合、より早いタイミングで迅速にピンポイントの対策を実施
- ・ 引き続き、病床確保や宿泊療養施設の確保・活用等、医療提供体制の強化に取り組む

第4波への備え

再増加が見られた場合の強い措置の迅速な実施について

(1) 本県における「第3波」の感染拡大の態様

- ・昨年8月以降、熊本市中心部の飲食店で継続的に感染が持続し、徐々に全圏域に波及。
- ・昨年12月以降、熊本市のみならず全圏域に感染者が拡散→各地でのクラスター発生。
- ・年末年始の人の移動の増加に伴い、さらに感染が増加。

➡熊本市中心部からの、時間をかけた地理的な感染拡大が、1月初旬の爆発的拡大につながった。

(2) 対策を開始するタイミング

- ・第3波では、ステージ3指標の新規陽性者数に到達してから強い措置を開始。効果はあったが、医療が逼迫する結果となった。
- ・感染拡大の結果、現在、全圏域にウイルスが存在している状況と考えられる。
- ・今後、変異株の影響は拡大してくる可能性が高い。

➡第3波では強い対策の開始が遅かった。さらに今後は、これまで以上のスピードで感染が拡大する可能性がある。

リスクレベルの考えに立ち返り、早い時期に強い対策により抑え込む。

対策①：(1) 新規陽性者が県リスクレベル5 (県で150人)又は熊本市のみがステージ3 (市で110人)の基準に達し
かつ、

(2) 熊本市中心部の飲食店が関連する感染が増加し、そこからの波及が考えられる等の場合、
ピンポイントに飲食店への時短要請等の強い措置を実施

改正特措法の「まん延防止等重点措置」適用も検討

対策②：さらに感染が拡大し、県全域がステージ3 (県で262人)に達する場合、
不要不急の外出自粛要請や、県全域の時短要請等の追加対策を実施

【強い対策を実施するタイミングのイメージ】それぞれの始期を2週間程度早める

	県レベル5 (国ステージ2) (又は熊本市で国ステージ3)	国ステージ3	国ステージ4
今回のタイミング	12月14日	12月29日	1月11日
今後のタイミング	熊本市中心部への措置	熊本市中心部への措置 全県的措置	全県的措置(1/14から)